

(別紙7) 評価基準

1 技術提案書の特定

(1) 技術提案書の特定方法

技術提案書の特定は、評価値によるものとし評価値の算出方法は次とする。
但し、参加資格、設計共同体の要件を満たしていない者は特定から除外する。

【評価値の算出方法】

評価値 = 技術評価点 + 価格評価点

= 150 + 50

= 200 点

価格評価点 = (1 - 見積価格/契約限度額) × 技術評価点 × 2.5

但し、価格評価点は、50 点を最高点とする。

(2) 技術評価

技術評価は、客観的評価及び特定テーマにより評価する。

区分	評価項目	配点		合計
		土木関係	建築関係	
客観評価	参加表明者の能力	17		17
	業務実施体制	22		22
特定テーマによる評価	業務実施方針	36	15	51
	特定テーマ	40	20	60
技術評価点 合計		115	35	150

(3) 特定テーマ

【土木技術】

総合的なコスト削減と工期短縮のための施工計画の着眼点について

周辺住環境を考慮した設計における留意点

【建築技術】

被覆型最終処分場に関する総合的なコスト削減を考慮した総合的な提案

LOC02(生涯二酸化炭素排出量)の削減及び自然エネルギーを生かした環境負荷低減に向けて
設計上配慮すべき事項について

2 参加表明者の能力の評価

評価項目	評価の着眼点		評価のウエート	
	判断基準			
第1構成員	技術部門登録 コンサルタント登録の有無	河川，砂防及び海岸部門	0.5	4.0 = (~) 登録している部門ごとに 加点する。
		上水道及び工業用水道部門	0.5	
		下水道部門	0.5	
		農業土木部門	0.5	
		森林土木部門	0.5	
		廃棄物部門	0.5	
		造園部門	0.5	
		土質及び基礎部門	0.5	
第1構成員	成果の確実性	平成 11 年度以降に最終処分場の業務実績がある。	あり 2.5	成果に不良なものがあつたと判断される場合加点しない。
		平成 16 年度以降に本件業務に含まれる業務実績又は関連した業務(以下「同種業務」という。但し最終処分場は除く。)がある。	10ha 以上の造成設計の実績 2.5 10ha 未満の造成設計の実績 1.5 造成設計の実績がない場合は特定しない。	成果に不良なものがあつたと判断される場合加点しない。
	不誠実な行為	平成 19 年度以降の岡山県又は圏域市町から入札妨害による指名停止・営業停止の有無。	ない 2.0	
第2構成員	実績	平成 16 年度以降に岡山県又は圏域市町から受注した同種業務の内，最も大きい請負金額。		請負額 1,000 万以上 1.0 請負額 500 万以上 0.5
		能力 技術職員の数 (建設コンサルタント部門と測量部門の重複は不可。但し，その他資格者の重複は可。)	建設コンサルタント部門	10 人以上 1.5 5 人以上 1.0
	測量部門		10 人以上 1.5 5 人以上 1.0	
	その他資格者 (土木施工管理士等)		5 人以上 1.0 2 人以上 0.5 (一級建築士が所属する場合 1.0 加点する。)	
小 計			17.0 10 点未満は選定しない。	

3 業務実施体制（配置予定技術者の経験及び能力等）の評価

評価項目	評価の着眼点		評価のウエート
		判断基準	
技術者の配置	主任技術者	技術者の資格	技術士（総合技術監理部門）2.0 総合技術監理部門以外の技術士 1.0 技術部門又は選択部門が本件業務と関連の薄い場合は加点しない。実務経験がある場合は、造成工事 1 点，最終処分場 2 点を加点する。
	管理技術者・照査技術者の配置	業務の分類，設計業務の分類及び配置理由が適切であるか総合的に判断する。 （業務の分類及び分担と技術者の配置・育成，業務実施体制，工程表，見積書を総合的に判断する。）	適切 7.0 概ね適切 4.0 やや不適切 2.0 不適切な場合は特定しない。
予定管理技術者の経験及び能力	管理技術者	設計業務の業務分類が 以上に該当する項目の配置技術者について配置技術者別に技術者の資格及び経験が適切であるか判断する。工学博士，土木学会特別上級技術者，上級技術者，一級技術者は専門，経歴により判断する。	配置技術者 1 人 1 点を最高点とし，合計 3 点まで加点する。 「測量・設計業務等に係る技術者の配置及び選任基準」（以下「選任基準」という。）及び本件業務の告示，仕様書を満たしていない場合は特定しない。
	照査技術者	管理技術者と同じ。	管理技術者と同じ
協力事務所	協力事務所	適切な協力事務所の選定。	0～4.0 協力を依頼する内容及び事務所の実績により判断する。
小 計			22.0

* 業務の分類，設計業務の分類は本件業務において適切であるかどうか判定する。

* 協力事務所は，構造設計一級建築士，設備設計一級建築士，屋外環境学習計画及び指導計画案，その他計画について助言を得る事務所，学術機関等について適切な事務所等が選定されているか判断する。

適切	概ね適切	やや不適切	不適切
4.0	3.0	1.0	0

4 実施方針の評価

評価項目	評価の着眼点		評価のウエート	
		判断基準	土木関係	建築関係
実施方針・ 実施フロー・ 工程表・その他	業務理解度	目的,条件,内容の理解度が高い場合に優位に評価する。	12.0	5.0
	実施手順	業務実施手順を示す実施フローの妥当性が高い場合優位に評価する。	10.0	4.0
		業務量の把握状況を示す工程計画の妥当性が高い場合優位に評価する。	9.0	3.0
	その他	有益な計画案,重要事項の指摘がある場合に優位に評価する。	5.0	3.0
			36.0	15.0
小 計			51.0	

評価のウエートの配点比率

極めて良好	良好	普通	やや不十分	不十分
1.0	0.8	0.5	0.2	0

5 特定テーマの評価

(1) 土木技術

総合的なコスト削減と工期短縮のための施工計画の着眼点について

評価項目	評価の着眼点		評価のウエート
		判断基準	提案書
評価テーマに対する 技術提案	的確性	事業の計画,目的,性質,地形,環境,地域特性などの付与条件との整合性が高い場合に優位に評価する。	7.0
		着眼点,問題点と解決方法が網羅されている場合に優位に評価する。	4.0
	実現性	提案内容に説得力がある場合に優位に評価する。	7.0
		提案内容を裏付ける類似実績などが明示されている場合に優位に評価する。	2.0
小 計			20.0

周辺住環境を考慮した設計における留意点

評価項目	評価の着眼点		評価のウエート
		判断基準	提案書
評価テーマに対する 技術提案	的確性	事業の計画,目的,性質,地形,環境,地域特性などの付与条件との整合性が高い場合に優位に評価する。	7.0
		着眼点,問題点と解決方法が網羅されている場合に優位に評価する。	4.0

案		する。	
	実現性	提案内容に説得力がある場合に優位に評価する。	7.0
		提案内容を裏付ける類似実績などが明示されている場合に優位に評価する。	2.0
小 計			20.0

(2) 建築技術

総合的なコスト削減について

評価項目	評価の着眼点		評価のウエート
		判断基準	提案書
評価テーマに対する技術提案	的確性	事業の計画，目的，性質，地形，環境，地域特性などの付与条件との整合性が高い場合に優位に評価する。	3.5
		着眼点，問題点と解決方法が網羅されている場合に優位に評価する。	2.0
	実現性	提案内容に説得力がある場合に優位に評価する。	3.5
		提案内容を裏付ける類似実績などが明示されている場合に優位に評価する。	1.0
小 計			10.0

LOC02(生涯二酸化炭素排出量)の削減及び自然エネルギーを生かした環境負荷低減に向けて設計上配慮すべき事項について

評価項目	評価の着眼点		評価のウエート
		判断基準	提案書
評価テーマに対する技術提案	的確性	事業の計画，目的，性質，地形，環境，地域特性などの付与条件との整合性が高い場合に優位に評価する。	3.5
		着眼点，問題点と解決方法が網羅されている場合に優位に評価する。	2.0
	実現性	提案内容に説得力がある場合に優位に評価する。	3.5
		提案内容を裏付ける類似実績などが明示されている場合に優位に評価する。	1.0
小 計			10.0

(3) 評価のウエートの配点比率

極めて良好	良好	普通	やや不十分	不十分
1.0	0.8	0.5	0.2	0